

別記様式第1号の2

西日本工業大学工学部情報マネジメント学科設置届出書

令和7年4月30日

文部科学大臣 殿

学校法人 西日本工業学園
理事長 鹿田 磨 樹

このたび、西日本工業大学工学部情報マネジメント学科を設置することについて、学校教育法第4条第2項及び学校教育法施行令第23条の2第1項の規定により、別紙書類を添えて届け出ます。なお、届出の上は、確実に届出に係る計画を履行します。

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジツン ニシニッポンコウギョウカクエン 学校法人 西日本工業学園									
フリガナ大学の名称	ニシニッポンコウギョウカク 西日本工業大学 (Nishinippon Institute of Technology)									
大学本部の位置	福岡県京都郡苅田町新津一丁目11番地1									
大学の目的	西日本工業大学は、「人間性に支えられた高度な工業技術者を広く学術の研鑽を通じて育成する」を建学の理念に掲げ、「豊かな人間性の練成とすぐれた工業技術者の育成」を教育目標に設定し、学生と教員との交流を通じた人間教育に重点を置き「学生の個性を伸ばすきめ細かな教育」の実践に取り組んでいる。また「人を育て技術を拓く」を基本理念に少人数ゼミナール、体験学習や現場学習の機会を通して課題探求・提案・解決能力等を育成し、産業界を支える自立した実務型技術者、経営者、起業家及び教員の育成を目標としている。									
新設学部等の目的	IT人材の不足については、国全体では2030年に79万人に拡大すると予測されているが、近年本学周辺の地域企業等においても、特に財務・経理、人事、生産・販売管理といったマネジメント系部門向けのITエンジニアの輩出を求める声が高まっている。こういった企業のマネジメント系部門ではICTに関する基礎教育を受けた人材が不足し、情報システムに関わるトラブルが多く、加えて中小企業ではDXを主導できる情報技術者の不足が深刻化している。そこで、本学において既存の情報系教育資源を活用し、併せてマネジメント系科目を教育する文理融合型の情報マネジメント学科を新設することで、地域の人材ニーズに応えることとする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	工学部 (Faculty of Engineering)	年	人	年次 人	人	学士(工学)	工学関係	年 月 第 年次	福岡県北九州市小倉北区室町一丁目2番11号	
	情報マネジメント学科 (Department of Information Management)	4	40	2	164	(Bachelor of Engineering)		令和8年4月 第1年次 令和10年4月 第3年次		
	計		40	2	164					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	工学部 総合システム工学科〔定員減〕 (△40) (令和8年4月) (3年次編入学定員) (△2) (令和10年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	情報マネジメント学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位				
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)		
新設分	工学部 情報マネジメント学科		教授	准教授	講師	助教	計	人	人	
			4 (4)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	14 (7)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)			
	小計(a～b)		3 (3)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	7 (7)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
計(a～d)		4 (4)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	8 (8)				
計		4 (4)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	8 (8)	0 (0)			

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数2人

既	工学部 総合システム工学科	20 (20)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	26 (26)	0 (0)	29 (29)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 0人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	20 (20)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	25 (25)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)			
	小計（a～b）	19 (19)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	26 (26)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	20 (20)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	26 (26)				
設	デザイン学部 建築学科	5 (5)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	18 (18)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 0人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)			
	小計（a～b）	5 (5)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	11 (11)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	5 (5)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	11 (11)				
分	デザイン学部 情報デザイン学科	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	16 (16)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 1人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)				
計	29 (29)	13 (13)	1 (1)	2 (2)	45 (45)	0 (0)	63 (63)		
合 計		33 (33)	15 (15)	2 (2)	3 (3)	53 (53)	0 (0)	77 (70)	
職 種		専 属		そ の 他		計			
事 務 職 員	40 (40)		1 (1)		41 (41)		人		
技 術 職 員	1 (1)		3 (3)		4 (4)		人		
図 書 館 職 員	2 (2)		0 (0)		2 (2)		人		
そ の 他 の 職 員	0 (0)		0 (0)		0 (0)		人		
指 導 補 助 者	0 (0)		0 (0)		0 (0)		人		
計	43 (43)		4 (4)		47 (47)		人		

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		大学全体				
	校 舎 敷 地		116,450㎡	㎡	㎡	116,450㎡						
	そ の 他		3,099㎡	㎡	㎡	3,099㎡						
合 計		119,549㎡	㎡	㎡	119,549㎡							
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		大学全体				
			45,303㎡ (45,303㎡)	㎡ (㎡)	㎡ (㎡)	45,303㎡ (45,303㎡)						
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室	33室	教 員 研 究 室	63室		大学全体				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		電子図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具	標本	学部単位での特 定不能のため、 大学全体の数	
		冊	冊	種	点	点						
		情報マネジメント学科	136,084 [19,640] (136,084 [19,640])	104 [0] (104 [0])	1,971 [539] (1,971 [539])	0 [0] (0 [0])	2,777 (2,777)	0 (0)				
計		136,084 [19,640] (136,084 [19,640])	104 [0] (104 [0])	1,971 [539] (1,971 [539])	0 [0] (0 [0])	2,777 (2,777)	0 (0)					
スポーツ施設等			スポーツ施設		講堂		厚生補導施設		大学全体			
			43,068.47㎡		0㎡		153.01㎡					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※届出学部全体 ※共同研究費等 は学長査定特別 教育研究事業費 (学長裁量事業 費)である。大学 院・学部・学科別 に算出不能のため、 大学全体の 金額を記載して いる。 ※図書費には電 子ジャーナル・図 書システムの運		
		教員1人当り研究費等		240千円	240千円	240千円	240千円	—	—			
		共同研究費等		24,000千円	24,000千円	24,000千円	24,000千円	—	—			
		図書購入費	8,500千円	8,500千円	8,500千円	8,500千円	8,500千円	—	—			
	設備購入費	30,000千円	30,000千円	30,000千円	30,000千円	30,000千円	—	—				
	学生1人当り 納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
			1,440千円	1,240千円	1,240千円	1,240千円	—	—				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、外部研究費、寄附金、雑収入 等									
大 学 等 の 名 称		西日本工業大学										
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所 在 地			
既 設 大 学 等 の 状 況		年	人	年次 人	人		倍					
		工学部 総合システム工学科	4	210	3年次 6	882	学士(工学)	0.91 0.91	平成21年度	福岡県京都郡荻田町 新津1丁目11番地1		
		デザイン学部 建築学科	4	75	3年次 2	314	学士(工学)	1.05 1.14	平成18年度	福岡県北九州市小倉 北区室町1丁目2番 11号		
		情報デザイン学科	4	65	2	224	学士(工学)	0.96	平成18年度			
工学研究科 生産・環境システム専攻		2	10		20	修士(工学)	0.95	平成16年度	福岡県京都郡荻田町 新津1丁目11番地1			
附 属 施 設 の 概 要		名 称：情報科学センター 目 的：情報科学教育の環境整備及び研究 所 在 地：福岡県京都郡荻田町新津一丁目11番地1（おぼせキャンパス内） 設置年月：昭和53年4月 規 模 等：建物 2,260.49㎡										
		名 称：総合実験実習センター 目 的：工学教育における総合的な実験実習の推進及び学生の科学技術活動支援 所 在 地：福岡県京都郡荻田町新津一丁目11番地1（おぼせキャンパス内） 設置年月：平成11年4月 規 模 等：建物 4,537.33㎡										
		名 称：地域・産学連携センター 目 的：地域及び産学連携の推進並びに大学COC事業担当部署 所 在 地：福岡県北九州市小倉北区大門一丁目5番1号 設置年月：平成21年4月 規 模 等：建物 3,900.46 ㎡										

学校法人西日本工業学園 学科設置届出に関わる組織の移行表

令和7年度

入学
定員

編入学
定員

収容
定員

令和8年度

入学
定員

編入学
定員

収容
定員

変更の事由

西日本工業大学			
		3年次	
工学部 総合システム工学科	210	6	852
		3年次	
デザイン学部 建築学科	75	2	304
		3年次	
デザイン学部 情報デザイン学科	65	2	264
計	350	10	1,420
西日本工業大学大学院			
工学研究科 生産・環境システム専攻(M)	10	—	20
計	10	—	20

西日本工業大学				
		3年次		
工学部 総合システム工学科	<u>170</u>	<u>4</u>	<u>688</u>	定員の変更(△40), 編入学定員(△2)
		3年次		
工学部 情報マネジメント学科	<u>40</u>	<u>2</u>	<u>164</u>	学部の学科の設置(届出)
		3年次		
デザイン学部 建築学科	75	2	304	
		3年次		
デザイン学部 情報デザイン学科	65	2	264	
計	350	10	1,420	
西日本工業大学大学院				
工学研究科 生産・環境システム専攻(M)	10	—	20	
計	10	—	20	

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届出時における状況					新設了学部等の学年進行状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	基幹教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	基幹教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
工学部 総合システム工 学科	学士(工学)	工学関係	工学部総合システム工学科	26	20	工学部 総合システム工 学科	学士(工学)	工学関係	工学部総合システム工学科	26	20
			工学部情報マネジメント学科	4	1						
			計	30	21				計	26	20
/						工学部 情報マネジメント 学科	学士(工学)	工学関係	工学部総合システム工学科	4	1
			デザイン学部情報デザイン学科	3	2						
			新規採用	1	1						
			計	8	4						
デザイン学部 建築学科	学士(工学)	工学関係	デザイン学部建築学科	11	5	デザイン学部 建築学科	学士(工学)	工学関係	デザイン学部建築学科	11	5
			計	11	5				計	11	5
デザイン学部 情報デザイン学 科	学士(工学)	工学関係	デザイン学部情報デザイン学科	8	4	デザイン学部 情報デザイン学 科	学士(工学)	工学関係	デザイン学部情報デザイン学科	8	4
			工学部情報マネジメント学科	3	2						
			計	11	6				計	8	4

基 礎 と な る 学 部 等 の 改 編 状 況

開設又は 改編時期	改 編 内 容 等	学 位 又 は 学 科 の 分 野	手 続 きの 区 分
昭和42年4月	工学部 電気工学科を設置	工学関係	設置認可(学部・学科)
平成15年4月	工学部 電気工学科 → 電気電子情報工学科	工学関係	名称変更(学科)
平成21年4月	工学部 総合システム工学科を設置	工学関係	設置届出(学科)
平成21年3月	工学部 電気電子情報工学科を学生募集停止	—	学生募集停止(学科)
令和8年4月	工学部 情報マネジメント学科を設置	工学関係	設置届出(学科)

教育課程等の概要

(工学部情報マネジメント学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	員(助手を除く) 基幹教員以外の教		
基礎科目	スタートアップセミナーⅠ	1前	○	1			○				1	1				共同	
	スタートアップセミナーⅡ	1後	○	1			○				1	1				共同	
	計(2科目)	—		2	0	0	—				0	1	1	0	0	0	
総合共通科目	福岡地域学	1前			2		○									2	オムニバス
	社会生活とリベラルアーツの基礎	1前			2		○			1							メディア
	総合人間科学	1後	○	2			○									3	オムニバス
	総合社会科学	1後			2		○									1	
	日本国憲法	2前			2		○			1							メディア
	セールス・マーケティング	2前			2		○			1							メディア
	キャリアプランⅠ	2前	○	1			○				1		1				共同
	キャリアプランⅡ	2後	○	1			○				1		1				共同
	スポーツ科学	2後			2		○								1		
	ものづくりと倫理	3前			2		○								1		
	人材マネジメント	3前			2		○			1							メディア
	キャリアデザインⅠ	3前			1		○			2							共同
	キャリアデザインⅡ	3後			1		○			2							共同
	物流・貿易	3後			2		○								1		メディア
	ビジネスサポート	3後			2		○			1							メディア
	計(15科目)	—		4	22	0	—			3	1	0	1	0	8		
専門基礎科目	情報リテラシー	1前	○	2			○								1		メディア
	経済学入門	1前			2		○				1						メディア
	経営学概論	1後			2		○				1						メディア
	応用経済学	2前			2		○				1						メディア
	財政学入門	3前			2		○				1						メディア
	ファイナンス	3後			2		○				1						メディア
	コミュニティ論	4前			2		○								1		
	COCプロジェクトⅠ	1～4前後			2			○							1		標準外
	COCプロジェクトⅡ	1～4前後			2			○							1		標準外
	COCプロジェクトⅢ	1～4前後			2			○							1		標準外
語学系	英語Ⅰ	1前	○		2		○								1		
	英語ⅠS	1前	○		2		○								1		
	英語Ⅱ	1後	○		2		○								1		
	英語ⅡS	1後	○		2		○								1		
	TOEICⅠ	2前			2		○								1		
	TOEICⅠS	2前			2		○								1		
	TOEICⅡ	2後			2		○								1		
	英会話Ⅰ	3前			2		○								1		
	英会話Ⅱ	3後			2		○								1		
	中国語Ⅰ	1後			2		○								1		
	中国語Ⅱ	2前			2		○								1		
	韓国語	1後			2		○								1		
	計(22科目)	—		2	42	0	—			0	1	0	0	0	10		
	小計(39科目)	—	—	8	64	0	—			3	2	1	1	0	17		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員(助手を除く)
工学部 共通科目	工学概説	1前	○	2			○			1					14	オムニバスメディア
	デザイン学概説	3前			2		○								15	オムニバスメディア
	京築学	2後			2		○								1	メディア
	基礎物理学S	1前			2		○								1	メディア
	基礎物理学	1後			2		○								1	メディア
	線形代数学 I S	1前			2		○								1	メディア
	線形代数学 I	1前			2		○								1	メディア
	線形代数学 II S	1後			2		○								1	メディア
	線形代数学 II	1後			2		○								1	メディア
	微分積分学 I S	1前			2		○								1	メディア
	微分積分学 I	1前			2		○								1	メディア
	微分積分学 II S	1後			2		○								1	メディア
	微分積分学 II	1後			2		○								1	メディア
	データサイエンス入門	1後	○	2			○								1	メディア
	データサイエンス基礎	2前			2		○								1	メディア
	データエンジニアリング基礎	2後			2		○				1					メディア
	AI基礎	3前			2		○				1					メディア
	統計学S	2後			2		○					1				メディア
	統計学	2前			2		○					1				メディア
	esports基礎	3前			2		○								2	共同・メディア
	esports応用	3後			2		○								2	共同・メディア
	システム工学	3後			2		○								1	メディア
	情報メディア論	2後			2		○								1	メディア
	非破壊検査概論	3前			2		○								1	メディア
	スポーツ工学 I	1前			2		○								1	メディア
	スポーツ工学 II	1後			2		○								1	メディア
	スポーツ工学 III	2前			2		○								1	メディア
	ボランティア・フィールドワーク I	3前			2			○							1	メディア
	ボランティア・フィールドワーク II	3後			2			○							1	メディア
	情報技術基礎	1前	○		2		○					1				メディア
	初級簿記	1後	○		2		○				1					メディア
	AIリテラシー	1後	○		2		○				1					メディア
企業会計	2前			2		○				1					メディア	
企業実習 I	2休			1				○						1	標準外	
企業実習 II	2休			1				○						1	標準外	
企業実習 III	2休			1				○						1	標準外	
企業実習 IV	2休			1				○						1	標準外	
ゼミナール	3後	○	2				○			3	2	1	1		共同	
卒業研究 I	4前	○		3			○			3	2	1	1		共同	
卒業研究 II	4後	○		3			○			3	2	1	1		共同	
プロジェクト演習 I	4前			2			○			1						
プロジェクト演習 II	4後			2			○			1						
小計 (42科目)	—	—	—	6	76	0	—	—	—	3	2	1	1	0	37	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員(助手を除く)		
専門教育科目	ビジネス数学	1 前			2		○					1					メディア 他学科同時開講	
	マルチメディア工学	1 前			2		○								1		メディア 他学科同時開講	
	Web技術基礎	1 後			2		○			1								
	情報技術Ⅰ	1 後			2		○					1						
	数理最適化	1 後			2		○					1						
	情報リテラシー応用	1 後			2		○										1	メディア 他学科同時開講
	基礎プログラミングⅠ	2 前			2			○					1					
	基礎プログラミング演習	2 前			2				○					1				
	情報セキュリティ	2 前			2		○			1								
	ゲーム理論	2 前			2		○					1						
	経営管理システム	2 前			2		○			1								
	Web技術応用	2 前			2		○			1								
	アルゴリズム論基礎	2 後			2		○						1					
	情報技術Ⅱ	2 後			2		○			1								
	情報数学	2 後			2		○										1	メディア
	Webデザイン	2 後			2		○										1	
	基礎プログラミングⅡ	2 後			2			○							1			
	システム管理基礎	3 前			2		○			1								
	ソフトウェア工学	3 前			2		○										1	メディア 他学科同時開講
	法務・知的財産	3 前			2		○			1								
	生産管理システム	3 前			2		○										2	
	調達・購買システム	3 前			2		○										1	
	ソフトコンピューティング	3 前			2		○						1					
	データ可視化	3 前			2		○			1								
	AI・IoT演習Ⅰ	3 前			2			○		1				1				共同
	AI・IoT演習Ⅱ	3 後			2			○		1					1			共同
	品質管理工学	3 後			2		○										1	
	データベース	3 後			2		○										1	メディア 他学科同時開講
	コンピュータネットワーク	3 後			2		○										1	メディア 他学科同時開講
小計 (29科目)		—	—	0	58	0	—	—	—	—	—	4	0	1	1	0	7	
PBL科目	マネジメント課題探求演習	1 後	○	4				○				2	2		1			共同
	課題解決技術探求演習	2 前	○	4				○				1	2	1	1			共同
	DX化技術演習	2 後	○	4				○				3	1	1	1			共同
	ビジネスDX化演習Ⅰ	3 前	○	4				○				3	1					共同
	ビジネスDX化演習Ⅱ	3 後	○	4				○				3	1					共同
	プレゼンテーション・ファシリテーション	2 後			2			○				2						共同
小計 (6科目)		—	—	20	2	0	—	—	—	—	—	4	2	1	1	0	0	
合計 (116科目)		—	—	34	200	0	—	—	—	—	—	4	2	1	1	0	54	
学位又は称号		学士 (工学)		学位又は学科の分野			工学関係											
教養教育科目の「基礎スキル科目」から2単位、「総合共通科目」から8単位以上、「専門基礎科目」から10単位以上、学部共通科目及び専門教育科目の内から90単位以上取得し、合計124単位以上(卒業研究単位を含む)取得することにより卒業を認定する。 (履修科目の登録上限：各学期24単位)										1 学年の学期区分		2 学期						
										1 学期の授業期間		1 5 週						
										1 時限の授業の標準時間		9 0 分						

教育課程等の概要																	
(工学部総合システム工学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		員(助手を除く) 基幹教員以外の教	
基礎スキル科目	スタートアップセミナーⅠ	1前	○	1			○			4					共同		
	スタートアップセミナーⅡ	1後	○	1			○			4					共同		
	計(2科目)	—	—	2	0	0	—	—	—	4	0	0	0	0			
総合共通科目	福岡地域学	1前			2		○			1					1	オムニバス	
	社会生活とリベラルアーツの基礎	1前			2		○								1		
	総合人間科学	1後	○	2			○			1					2	オムニバス	
	総合社会科学	1後			2		○								1		
	日本国憲法	2前			2		○								1		
	キャリアプランⅠ	2前	○	1			○			2	1		1			共同	
	キャリアプランⅡ	2後	○	1			○			2	1		1			共同	
	体育Ⅰ	2前			1												
	体育Ⅱ	2後			1		○								1		
	ものづくりと倫理	3前			2		○								1		
	キャリアデザインⅠ	3前			1		○			3						共同	
	キャリアデザインⅡ	3後			1		○			1	1					共同	
	計(12科目)	—	—	4	14	0	—	—	—	7	1	0	0	0	7		
専門基礎科目	情報リテラシー	1前	○	2				○			1						
	経営学概論	1後		2			○								1		
	コミュニティ論	4前		2			○								1		
	COCプロジェクトⅠ	1~4前後		2				○							1	標準外	
	COCプロジェクトⅡ	1~4前後		2				○							1	標準外	
	COCプロジェクトⅢ	1~4前後		2				○							1	標準外	
	英語Ⅰ	1前	○		2		○			1					1		
	英語ⅠS	1前	○		2		○			1							
	英語Ⅱ	1後	○		2		○			1					1		
	英語ⅡS	1後	○		2		○			1							
	TOEICⅠ	2前			2		○			1							
	TOEICⅠS	2前			2		○			1							
	TOEICⅡ	2後			2		○			1							
	英会話Ⅰ	3前			2		○								1		
	英会話Ⅱ	3後			2		○								1		
	中国語Ⅰ	1前			2		○								1		
	中国語Ⅱ	1後			2		○								1		
	韓国語	1後			2		○								1		
	計(18科目)	—	—	2	34	0	—	—	—	1	1	0	0	0	9		
	小計(32科目)	—	—	8	48	0	—	—	—	11	1	0	0	0	14		
工学部共通科目	工学概説	1前	○	2			○			10	3	1			1	オムニバス	
	デザイン学概説	3前			2		○								15	オムニバス	
	京築学	2後			2		○								1		
	基礎数理学	1前			2		○			1							
	基礎物理学S	1前	○		2		○								1		
	基礎物理学	1後	○		2		○								1		
	物理学	1後			2		○								1		
	線形代数学ⅠS	1前	○		2		○			1							
	線形代数学Ⅰ	1前	○		2		○			1							
	線形代数学ⅡS	1後			2		○			1							
	線形代数学Ⅱ	1後			2		○			1							
	微分積分学ⅠS	1前	○		2		○			1							
微分積分学Ⅰ	1前	○		2		○			1								
微分積分学ⅡS	1後			2		○			1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		員(助手を除く)	
工学部 共通科目	微分積分学Ⅱ	1後			2		○			1							
	データサイエンス入門	1後	○	2			○			1							
	データサイエンス基礎	2前			2		○				1						
	複素関数論	2後			2		○			1							
	データエンジニアリング基礎	2後			2		○									1	
	AI基礎	3前			2		○									1	
	統計学S	2後			2		○									1	
	統計学	2前			2		○									1	
	常微分方程式	2前			2		○			1							
	代数学Ⅰ	3前			2		○			1							
	代数学Ⅱ	3後			2		○			1							
	幾何学Ⅰ	3前			2		○			1							
	幾何学Ⅱ	3後			2		○			1							
	確率・統計Ⅰ	3前			2		○									1	
	確率・統計Ⅱ	3後			2		○									1	
	esports基礎	3前			2		○			1	1						共同
	esports応用	3後			2		○			1	1						共同
	システム工学	3後			2		○									1	
	情報メディア論	2後			2		○									1	
	数値解析	2後			2		○			2						1	
	非破壊検査概論	3前			2		○									1	
	スポーツ工学Ⅰ	1前			2		○					1					
	スポーツ工学Ⅱ	1後			2		○					1					
	スポーツ工学Ⅲ	2前			2		○					1					
	ボランティア・フィールドワークⅠ	3前			2			○				1					
	ボランティア・フィールドワークⅡ	3後			2			○				1					
	企業実習Ⅰ	2休			1				○		1						標準外
	企業実習Ⅱ	2休			1				○		1						標準外
	企業実習Ⅲ	2休			1				○		1						標準外
	企業実習Ⅳ	2休			1				○		1						標準外
総合システムゼミナール	3後	○	2				○		18	4	1	1				共同	
卒業研究Ⅰ	4前	○		3			○		16	4	1	1				共同	
卒業研究Ⅱ	4後	○		3			○		16	4	1	1				共同	
プロジェクト演習Ⅰ	4前	○		2			○		2							共同	
プロジェクト演習Ⅱ	4後	○		2			○		2							共同	
小計(49科目)		—	—	6	90	0	—	—	19	4	1	1	0	23			
専門教育科目	機械工学系・電気情報工学系	ものづくり演習Ⅰ	1前	○		4		○		2					1	共同・オムニバス	
		ものづくり演習Ⅱ	1後	○		4		○		1	1	1				共同・オムニバス	
		計測工学	1後			2		○		1							
		機械工作Ⅰ	1前			2		○								1	
		機械工作Ⅱ	2前			2		○		1							
		読図	1後			2		○					1				
		設備保全概説	1後			2		○		1							
		CADⅠ	1後			2			○	1							
		情報リテラシー応用	1後			2			○	1						1	共同
		CADⅡ	2前			2			○	1							
		機械製図演習	2前	○		4			○							1	
		デジタルエンジニアリング	2前			2			○							1	
		デジタルものづくり演習	2後	○		4			○				1				
		機械保全演習Ⅰ	2前	○		4			○		2						共同
		機械保全演習Ⅱ	2後	○		4			○		2						共同
		機械要素Ⅰ	1前			2			○							1	
		制御工学	2後			2			○							1	
材料力学	2前			2			○		1								
材料力学演習	2前			2			○		1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員(助手を除く)	
専門教育科目	機械工学系・電気情報工学系	機械力学	2後		2		○				1						
		機械力学演習	2後		2			○			1						
		機械材料	2後		2		○				1						
		流体力学	2後		2		○				1						
		流体力学演習	2後		2			○			1						
		熱力学	2前		2		○				1						
		熱力学演習	2前		2			○			1						
		機構学	3前		2		○								1		
		機械要素Ⅱ	1後		2		○								1		
		機械工学演習	3前	○	4			○			3						共同
		機械設計・製図	3後	○	4			○			1				1		共同
		シーケンス制御	3前		2			○			1						
		機械総合演習Ⅰ	3後		2			○			3	1					オムニバス
		機械総合演習Ⅱ	3後		2			○			3	1					オムニバス
		エルゴノミクス概論	2後		2			○				1					
		実践スクリプトプログラミング	2前		2				○						1		
		加工技術演習	3前	○	4				○		2						共同
		自動車工学	4前		2			○							2		オムニバス
		電子計算機概論	1前		2			○			1						
		基礎電気回路Ⅰ	1前		2			○			1						
		基礎電気回路Ⅱ	1後		2			○			1						
		基礎プログラミング演習	1後	○	2				○		1						
		基礎プログラミングⅠ	1後		2				○		1						
		電気情報基礎演習Ⅰ	2前	○	4				○		2				1		共同
		電子回路Ⅰ	2前		2			○			1						
		メカトロニクス	2前		2			○			1						
		基礎プログラミングⅡ	2前		2				○		1						
		電気回路Ⅰ	2前		2			○						1			
		電気磁気学Ⅰ	2前		2			○			1						
		エネルギー変換	2前		2			○			1						
		コミュニケーション技術	2前		2			○				1					
		マルチメディア工学	1前		2			○				1					
		電気情報基礎演習Ⅱ	2後	○	4				○		1	1			1		共同
		電気電子計測	2後		2			○							1		
		電子回路Ⅱ	2後		2			○			1						
		電気回路Ⅱ	2後		2			○						1			
		電気磁気学Ⅱ	2後		2			○			1						
		電力工学	2後		2			○			1						
		プログラミング	2後		2				○		1						
		アルゴリズム設計	2後		2			○							1		
		ロボット工学	2後		2			○			1						
		電子情報通信システムⅠ	3前		2			○							1		
		過渡解析Ⅰ	3前		2			○			1						
情報構造	3前		2			○			1								
パワーエレクトロニクス	3前		2			○			1								
高電圧工学	3前		2			○			1								
電気機器	3前		2			○			1								
電力伝送システムⅠ	3前		2			○			1								
システムソフトウェア	3前		2			○			1								
論理設計	3前		2			○							1				
コンピュータ工学	3前		2			○				1							
電気設計・製図	3前		4				○						1				
電気電子材料	3前		2			○							1				
電子情報通信システムⅡ	3後		2			○							1				
電気電子工学演習Ⅰ	3前	○	4				○		3						共同		

科目区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員(助手を除く)	
機械工学系・電気情報工学系	過渡解析Ⅱ	3後			2		○			1							
	電力伝送システムⅡ	3後			2		○			1							
	画像処理	3後			2		○								1		
	ソフトウェア工学	3前			2		○			1							
	コンピュータネットワーク	3後			2		○			1							
	人工知能	3後			2		○									1	
	電気電子工学演習Ⅱ	3後	○		4			○		3							
	データベース	3後			2		○			1							
	電力発生工学	4前			2		○									1	
	電気法規及び施設管理	4後			2		○									1	
	知能制御工学演習Ⅰ	3前	○		4			○		1							
	情報工学演習Ⅰ	3前	○		4			○			1					1	
	知能制御工学演習Ⅱ	3後	○		4			○		1							
	情報工学演習Ⅱ	3後	○		4			○			1					1	
小計(88科目)		—	—	0	212	0	—	—	—	12	3	1	1	0	15		
専門教育科目	土木工学系	土木工学概説	○	2		○			1								
		CGデザイン		2		○			1								
		CGデザイン演習		2			○		1								
		G I S演習		2			○		1								
		G I S		2			○		1								
		土木CADⅠ		2			○		1								
		土木CADⅡ		2			○		1								
		測量学Ⅰ	○	2		○									1		
		測量学Ⅱ	○	2		○									1		
		測量学実習	○	2				○		1	1				1		
		応用地盤工学		2		○					1						
		土木材料学		2		○									1		
		土木力学基礎		2		○				1							
		構造工学Ⅰ	○	2		○				1							
		構造工学Ⅱ		2		○				1							
		土質力学Ⅰ	○	2		○					1						
		土質力学Ⅱ		2		○					1						
		コンクリート構造工学		2		○				1							
		地盤防災学		2		○									1		
		維持管理工学		2		○									1		
		水理学Ⅰ	○	2		○				1							
		水理学Ⅱ		2		○				1							
		土木計画学		2		○				1							
		国土政策		2		○										1	
		環境学		2		○				1							
		環境生態学		2		○				1							
		橋梁工学		2		○									1		
		交通工学		2		○									1		
		土木工程管理学		2		○				1							
		河川工学		2		○									1		
		水処理工学		2		○				1							
		環境計量学		2		○				1							
		土木施工学		2		○									1		
		海岸・港湾工学		2		○				1							
廃棄物処理工学		2		○									1				
都市・地域計画		2		○									1				
環境アセスメント		2		○									1				
土木技術と社会		2		○									1				
土木工学実験Ⅰ		2					○		3	1						共同	
土木工学実験Ⅱ		2					○		3	1						共同	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		員 (<small>助手を除く</small> 基幹 教員 以外 の教 員)	
専門 教育 科目	土木工学系																
	データサイエンス演習	2後			2			○								1	
	土木工学設計	2後			2			○		2							
	国土政策・環境共生演習	2前	○		2			○		2						1	
	環境ボランティア	2休			1			○		1							
地球開発・防災工学演習	2前		○		2			○		2	1					共同	
小計 (45科目)		—	—	16	73	0	—	—	—	4	1	0	0	0	0	10	共同
合計 (214科目)		—	—	30	423	0	—	—	—	20	4	1	1	0	0	55	
学位又は称号		学士 (工学)		学位又は学科の分野			工学関係										
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等										
教養教育科目の「基礎スキル科目」から2単位、「総合共通科目」から8単位以上、「専門基礎科目」から10単位以上、学部共通科目、学科共通科目及び専門教育科目の内から90単位以上取得し、合計124単位以上 (卒業研究単位を含む) 取得することにより卒業を認定する。 (履修科目の登録上限：各学期24単位)							1学年の学期区分		2学期								
							1学期の授業期間		15週								
							1時限の授業の標準時間		90分								

授 業 科 目 の 概 要				
(工学部情報マネジメント学科等)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備 考
基礎 スキル 科目	スタートアップセミナーⅠ	○	大学生は、高校生とは異なり、自主的に 学ぶことが常に求められる。つまり、「生徒」から「学生」へなることが求められる。大学で学ぶことの意義を認識し、学生としてのマナー、授業の受け方などの基本姿勢、レポートの書き方やそのためのPCスキルなどの基礎的な学習スキルをしっかりと身に付けることが本講義の目的である。本講義では、グループディスカッションやブレインストーミングを通してコミュニケーションスキルの向上を図るとともに、キャリアパスの作成と発表を通してプレゼンテーションスキルの向上を図る。 担当教員は2名で、2班編成で指導、同一内容を全員で共同指導する。	共同
	スタートアップセミナーⅡ	○	スタートアップセミナーⅠを受けて、基礎学力(SPI)、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高め、自分のキャリアをデザインするための基礎力を身に付けることが本講義の目的である。本講義では、グループディスカッションやブレインストーミングを通してコミュニケーションスキルの向上を図るとともに、キャリアパスの作成と発表を通してプレゼンテーションスキルの向上を図る。 担当教員は2名で、2班編成で指導、同一内容を全員で共同指導する。	共同
教 養 教 育 科 目 総 合 共 通 科 目	福岡地域学		この講義は、福岡県全域およびその歴史と現状を理解し、地域の発展に貢献するための姿勢や能力を養成することを目的としている。授業では、福岡の産業、交通、社会構造、住環境、防災、文化など多様なテーマについて学び、福岡県内の各地域が抱える課題を探究する。また、課題解決型学習(PBL)を通じて、学生は自らの視点で地域課題を分析し、具体的な解決策を提案する。最終的には、福岡県の発展に貢献するための具体的な提案をレポートとして表現する能力を身につけることを目指す。	オムニバス
	社会生活とリベラルアーツの基礎		リベラルアーツとはLiberal(自由)に考え、行動するためのArts(学術・芸術)。本授業では広範なリベラルアーツ科目の中から、社会生活に関連する「異文化コミュニケーション」「歴史」「日本と諸外国の社会」「貨幣と資本主義」「チームワーク」「日本と諸外国での雇用と労働」「財務・経理」「モノ創り」「マーケティング」「法務・知的財産」「国際貿易」「リーダーシップ」等について学び、普遍的な前提から個別の問題を解決に導く力を身に付けることによって、不確実性の高い社会を生き抜くことができる自律した人材の育成を目的とする。	メディア
	総合人間科学	○	この科目は、心理学、倫理学、哲学、福祉学などの自然科学・人文科学・社会科学に関する学問の基礎的内容に触れることによって、広い視野を持つ教養を身につけることを目的としている。授業では、知覚、記憶、思考の心理学的側面や、哲学的な人間と自然環境の関係、人間の存在に関する考察などを学ぶ。さらに、トランス・サイエンスやウェルビーイングの概念を通じて、現代社会における課題に取り組む視点を養う。最終的には、学生がこれらの知識をレポート形式で表現し、問題解決の基盤を形成することを目指す。	オムニバス
	総合社会科学		本授業では、社会科学について、科学の三類型(人文(科)学、社会科学、自然科学)それぞれの違いや社会科学の主要分野である経済学および政治学、社会学について、その方法や特性、成立過程等の学修を通して、社会科学に対する基礎的な知識を習得する。また、現代日本社会を巡る諸問題(少子高齢化、社会の水平・垂直両軸における二極分化、ガバメントとガバナンス、地方分権等)に対して、社会科学の視点から幅広く考察を加えることを通じて、社会科学における基本的な思考法や自ら主体的に思考する力を身に付ける。さらには、これらを切り口として社会に対して一定の視座を獲得し、社会への対応力を涵養する。	
	日本国憲法		この講義の目的は、社会のあらゆる問題(領土、原発、安全保障、年金、財政、エネルギー、労働、教育など)に関して法律的な視点から議論に参加し考察することにある。人の権利や自由を守ってくれる憲法とは、国民のひとり一人、誰もが大事であること、その人間の尊厳を大切にすること、また国家の権力が大きくなりすぎないようにするためのものである。憲法を学び、自分の中に最も重要な価値基準を作り上げ、自分の生き方をも決めていけるよう学修する。	メディア
	セールス・マーケティング		マーケティングは、「顧客・依頼人・パートナー・社会全体にとって価値のある提供物を、創造・伝達・配達・交換するための活動であり、一連の制度、そしてプロセスである」と定義される。即ち、顧客価値を採るためのマーケット・リサーチ、価値を組織として創るための戦略(新商品やサービスの企画・開発・設計)、価値を顧客へ伝えるためのブランディング・コミュニケーション(広告・宣伝・広報)、マーチャンダイジング(価格・数量・発売時期設定)、価値を交換する販売(店舗の設置・集客・接客・代金回収)、価値を届ける流通、販売後に顧客と対応するコールセンター、これらの業務の質の評価・分析、顧客情報の管理や分析などに至る幅広い範囲がマーケティングに含まれ、企業活動の中核に当たる。また、セールス(営業)はマーケティングの一部であり、顧客の潜在的ニーズを踏まえて、商品の魅力を伝え、クロージングをする(売る)ことをいう。本講義ではセールス・マーケティングの基礎を学んだうえで、InstagramやX(旧Twitter)といったソーシャル・ネットワーク・サービスを活用したSNSマーケティングなど、企業の活動事例について理解を深める。	メディア

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教育科目	キャリアプランⅠ	○	この講義は、1年次に受講したスタートアップセミナーを基礎とし、自己理解をさらに深めることで、自分らしい生き方を模索することを目的としている。また、社会の動きや要請を理解し、それに対処するための基礎学力やコミュニケーション能力を養うことも重要な目的である。授業では、キャリアプランや自己分析、キャリアに関するセミナー、適性検査、グループディスカッションを通じて、将来の目標を明確にし、社会での役割を自覚する力を身につける。最終的には、「働く」という視点から社会の仕組みを理解し、自分らしく生きるために必要な行動を考察する能力を育成する。	共同
	キャリアプランⅡ	○	この講義は、キャリアプランⅠで学んだキャリア形成方法をさらに確実にすることを目的としている。具体的には、基礎学力、コミュニケーション能力、協調・協同能力を高めながら、専門性を生かしたキャリアプランの作成と実践に必要なスキルを正しく理解することを目指す。授業では、個人面談や就活対策の適性検査、グループワークやセミナーを通じて、自己分析やキャリアに対する意識を高める。また、健康管理やライフプランに関するセミナーも含まれ、学生が将来の目標に向けて具体的な計画を立てることを支援する。最終的には、反復的な学習やグループワークを通じて、社会人基礎力として必要な「考える力」や「チームで働く力」を養うことを目指す。	共同
	スポーツ科学		本講義は、スポーツ（運動）と健康に関する総合的な知識の習得を目的とする。まず、スポーツが身体と心とに与える影響を理解し、健康維持の重要性を認識する。次に、スポーツ心理学を通じて、モチベーションやストレス管理、チームワークの心理的側面を学ぶ。さらに、最新のスポーツ科学研究の事例を紹介し、その知識を深める。グループワークやプレゼンテーションを通じて、健康促進のための運動プログラムやパフォーマンス向上に寄与する知識を養成する。これにより、スポーツ科学に対する理解を深め、実社会での応用力を身につけることを目指す。	
	ものづくりと倫理		この講義は、工業製品の製作や設計に必要な倫理的な思考を、技術者や設計者として身につけることを目的としている。特に、自動車をはじめとする工業製品が倫理的な行動と密接に関わっていることを理解し、その中で倫理的な判断が重要であることを学ぶ。また、技術士試験などに必要な基礎的知識も修得する。授業では、技術倫理の基礎から応用倫理学、さらに具体的な技術倫理事例を取り上げ、技術者が社会における倫理的責任をどのように果たすべきかを考察する。学生はこれらを通じて、プロフェッション意識を涵養し、社会的な倫理観を持った技術者としての基礎を築くことを目指す。	
	人材マネジメント		人材マネジメントとは、企業の経営理念や目標を達成するために、人材を経営資源として活用する仕組みや人事戦略である。本講義では、企業の要員計画、採用、能力開発、人財活用（配属、異動、昇進、昇格）、人事評価といった人材マネジメントの基本プロセスと併せて、賃金・賞与、福利厚生、労働安全衛生、労働時間管理、労使関係等の人事制度について学習する。また、LGBTQを含めたダイバーシティへの取組みや国毎に異なる人材マネジメント手法に関して理解を深める。	メディア
	キャリアデザインⅠ		この講義は、2年次のキャリアプランⅠ・Ⅱで学んだ自己分析をさらに進め、社会の中で自分らしく生きていく方法を模索することを目的としている。具体的には、自己を表現する方法や社会の要請を理解し、それに応じた基礎学力やコミュニケーション能力を養い、修得した知識やスキルを活かしてキャリア形成を図る。授業では、進路選択や自己分析、インターンシップ、業界研究などを通じて、学生が自らの進路を明確にし、自己PR能力を高めることを目指す。また、個別面談やグループワークを通じて、具体的なキャリアプランを立て、実践に向けたスキルを身につける。最終的には、様々な進路や業界、職種について理解し、他者に説明できる能力を養うことを目標とする。	共同
	キャリアデザインⅡ		この講義は、キャリアデザインⅠを受けて、自己表現方法やコミュニケーション能力の向上をさらに進め、キャリア形成の方法を確実に身につけることを目的としている。具体的には、コミュニケーション能力および協調・協同能力をしっかりと修得し、それを基に専門性を活かしたキャリア形成能力を養う。授業では、業界研究や履歴書作成、模擬試験、企業人によるセミナーを通じて、就職活動に必要なスキルや知識を学ぶ。また、グループディスカッションやディベートを行い、他者とのコミュニケーション力を強化する。最終的には、自己分析や自己PRができ、進路や業界に関する情報を収集・整理し、それを他者に説明できる能力を身につけることを目指す。	共同
	物流・貿易		物流は物的流通の略語で、生産物を生産者から消費者へ引き渡すことを指す。一方貿易とは、国境を越えて行われる商品の売買取引であり、いずれも現代の国民生活に不可欠なものとなっている。本講義では、移動と保管の価値、物流拠点、倉庫管理といったSupply Chain Managementの基礎を学んだ上で、Third Party Logistic、車両動態管理、モーダルシフト、Activity-Based Costing等の物流に関する手法について理解を深める。また併せて、国際貿易体制、貿易取引、インコタームズ、外国為替、貿易輸送、リスク管理及び保険といった貿易の基礎を学習する。	メディア
	ビジネスサポート		ビジネス・サポートは、一般的には秘書と呼ばれ、職場の上司に対して業務のサポートを行う仕事を指し、上司が本来業務に専念できるよう、電話・メール・郵便物の対応、来客対応、スケジュール管理・調整、資料作成、接待交際業務のサポートといった庶務業務を行う。本講義では、秘書の自覚・心構え・必要な能力・役割及び機能を学んだうえで、職場でのマナー、聞き方・話し方、敬語と接遇の基礎、受付・案内・電話・会議対応、並びに交際業務といった基礎スキルを学習する。また併せて、企業組織のしくみと活動、企業の財務と社会常識、ビジネス文書とその取扱い、文書・資料管理、日程管理等のビジネス・サポート業務への習熟を目指す。	メディア
	専門基礎科目	情報リテラシー	○	本講義では、今後の大学生活や社会の中で必要となるコンピュータやインターネットに関する基本的な知識および技術を習得することを目的とする。具体的には、コンピュータの基本操作、インターネットを用いた情報検索技術の活用方法、情報セキュリティ・情報モラルに関する知識、ワープロソフトウェアによる文書作成技術、表計算ソフトウェアによる情報処理技術、プレゼンテーションソフトウェアによる分かりやすい表現方法等を学習する。

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	経済学入門		「経済学」とは、人間の日々の経済活動を理論化し、その背景にある原理や仕組みを明らかにする学問である。個人や企業、そして政府がどのように資源を配分し、経済的な意思決定を行っているのかを理論的に理解することが目的である。具体的には、身近な消費者や企業の行動を分析する「ミクロ経済学」や、一国全体の経済を取り扱う「マクロ経済学」、そして国際的な貿易や金融問題を考察する「国際経済学」を学ぶ。この講義では、パワーポイントを使用し、講義形式でこれらの理論を解説し、学生が実際の経済現象を理論的に捉える力を養うことを目指す。日常の経済問題を理解し、広い視野で経済活動を考察する力を修得する機会となる。	メディア
	経営学概論		この講義は、企業の経営問題を追求する幅広く実践的な学問である経営学を、初めて学ぶ学生を対象に展開することを目的としている。経営学では、企業そのものや企業を取り巻く環境、働く人々、資金管理、企業活動の成果を測る会計などが研究対象に含まれる。また、経営の理論と実践が相互に影響し合い、時事問題とも深く関連している。本講義では、経営学の基本的な理論を学び、戦略論、マーケティング論、組織論、会計論といった主要な分野について、実際の事例を通じて理解を深める。最終的には、現実の経営問題に対して理論的に解明する力を養い、実際の経営課題に対応できるようになることを目指す。	メディア
	応用経済学		「経済」とは簡単に言えば「買う」「作って売る」こととそれに伴うお金の動きである。一国の経済は、買う人と売る人、そして政府の3人から構成されている。これら3人の経済主体がどのように経済活動を行っているのかという基本的な経済理論を学んだ上で、それらの経済理論を応用し、企業に関わる経済問題や、社会的問題を考えていく。	メディア
	財政学入門		「財政」とは政府が行う経済活動のことである。一国の経済は政府なしには成り立たない。政府は個人や企業から税金などを徴収し、必要な公共サービスを提供している。政府が行う経済活動が、どのような制度に基づき行われ、企業や個人に影響を与えているのかを理解する。ここでは、課税制度や景気対策なども学習する。	メディア
	ファイナンス		ファイナンスとは「金融」のことで、お金の動きを意味する。この授業では、企業や個人がお金と向き合うさまざまな場面で、お金を使う、稼ぐ、貯める、増やす、借りるなどといった活動がどのように行われ、あるいはどうあるべきかを考えていく。お金に関する知識を身に付け、企業や個人が適切な判断ができるようになるには何が必要か、理解する。	メディア
	コミュニティ論		社会の垂直・水平方向での二極化が止まらない。脆弱な自助と後退する公助を補完する共助を担う社会セクターの1つとして、また地方の衰退を阻止し、地域を再生するための有力な社会セクターとして、今、地域コミュニティに大きな期待が寄せられている。本授業では、地域コミュニティについての概念や歴史、その特性や機能等について学ぶとともに、これまでの地域社会政策の検証や現代地域社会の諸課題、さらには近年の地域コミュニティ改革への考察を通して、機能的かつ持続性を有するこれからの地域コミュニティのあり方について考え、一定の知見を獲得する。これは同時に、社会人としての地域コミュニティに対する個人における姿勢や貢献のあり方を身に付けることにつながる。	
	COCプロジェクトⅠ・Ⅱ・Ⅲ		本学が地(知)の拠点として地域再生を企図し、実践するためには、個別の案件に対応したプロジェクトが必要となるが、工学あるいはデザインを学んだ学生による学際的なプロジェクトを企画、実施することが本講義の目的である。主な内容は、地域が抱えている問題をインタビュー調査等により詳細に把握する、工学とデザインを融合した手法により地域再生の方法を検討する、コミュニティ活性的のための具体的な方策を提案し、実践する、などである。	標準外
	英語Ⅰ	○	この講義は、グローバル化が進む現代社会において必須となる英語基礎力の修得を目的としている。将来、職場で英語を使用する機会が増加すると予測され、その場面に対応できるようにするための基礎的な知識とスキルを提供する。授業では、be動詞、一般動詞の現在形や過去形、進行形などの基本的な文法項目を確認し、会話やライティングを通じて応用することに重点を置く。特にグループワークを通じて、学生は英語を使ったコミュニケーションスキルを高める機会がある。また、単に文法を学ぶだけでなく、代名詞や名詞の使い方など、日常会話や職場での実践的な表現力を身につけることを目指す。最終的には、簡単な英語を読む、聞く、話す力を養い、自己表現ができるようになることを目標としている。	
	英語ⅠS	○	この講義は、グローバル化が進む現代社会において職場で英語を使用する場面に対応できるように、基礎から発展レベルまでの英語力を修得することを目的としている。将来、英語を必要とするシチュエーションで困らないよう、文法やコミュニケーションスキルをしっかりと学び、実践的な英語力を身につけることを目指す。授業では、be動詞や一般動詞から始まり、否定文、疑問文、助動詞、進行形、受動態、完了形など、基本的な文法を段階的に学習し、英文法の仕組みを理解することに重点を置く。さらに、グループワークを通じて文法知識の応用力を高め、実際のコミュニケーションで使える英語力を養成する。最終的には、英文を頭からフレーズで理解し、コミュニケーションに必要な文法知識を他者に説明できるようになることを目標としている。	
	英語Ⅱ	○	この講義は、グローバル化が進む現代社会において必須となる英語基礎力を修得することを目的としている。将来、職場で英語を使用する場面に直面する可能性が高く、その際に困らないようにするため、文法や表現方法を基礎から学び、実践的なスキルを身につける。授業では、前置詞や未来形、現在完了形、比較・最上級、接続詞、動名詞・不定詞、疑問詞などの基本事項を学習し、その内容を会話やライティングを通じて応用する。また、グループワークを通じて、実際に英語を使ったコミュニケーション力を高める機会を提供する。最終的には、やさしい英語を読み、聞き取り、自分自身について表現する力を養成し、社会で必要な英語力を修得することを旨とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 語 学 系 目 目	英語 II S	○	この講義は、グローバル化が進む現代において、基礎から発展レベルまでの英語力を修得し、将来職場で英語を使用する際に困らないようにすることを目的としている。授業では、動名詞、不定詞、分詞、関係代名詞や副詞、仮定法など、コミュニケーションにおいて重要な文法事項を段階的に学習する。また、グループワークを通じて、これらの文法知識を実際に応用し、他者と効果的にコミュニケーションを取る能力を育成する。学生は、英文の基本構造を理解し、フレーズごとに英文を読み解く力を養うことが目標である。最終的には、英文を作成し、コミュニケーションに必要な文法知識を他者に説明できるレベルを目指す。	
	TOEIC I		この講義は、TOEIC Bridge教材を使用して、実用英語の基礎を学び、TOEIC受験対策の基礎力を養うことを目的としている。授業では、日常生活やビジネスシーンに関連するさまざまな英語表現を学び、リスニングとリーディングのスキルを向上させることを目指す。各回の授業では、人物の動作や状態、広告文、職業や身分、請求書や領収書、時刻表、商品説明書、Eメールなど、実践的な場面で役立つ内容を取り扱う。グループワークを通じて、英語でのやり取りに慣れ、実際のTOEIC BridgeやTOEICの試験形式に近い問題に挑戦しながら、理解力を深める。最終的には、日常生活で使用される英語を聞いて理解し、読解できる力を修得し、TOEIC Bridgeの問題にも対応できるようになることが目標である。	
	TOEIC I S		この講義は、TOEICの受験対策と実用的な英語力の向上を目的としている。授業では、ビジネスシーンを中心としたリスニングとリーディングを通じて、自動詞・他動詞、形容詞・副詞・前置詞、名詞と冠詞、進行形、完了形、不定詞などの文法事項を学習する。各ユニットごとに、リスニングセクションとリーディングセクションに分かれており、実際のTOEIC形式に沿った内容を扱いながら、ビジネスでの基本的な英語表現を強化する。また、グループワークを通じて学習内容の復習を行い、理解を深める機会も提供される。最終的には、TOEIC TESTの基本的な問題を解く力を身につけ、やさしいビジネス英語を聞いて理解し、読解する力を修得することを目標としている。	
	TOEIC II		この講義は、TOEICの受験対策と実用的な英語力の向上を目的としている。授業では、日常生活、エンターテインメント、交通、職業などの場面を通じて、TOEICで頻出する文法事項である動名詞、関係代名詞・関係副詞、複文、受動態、分詞、比較表現などを学習する。各ユニットごとに、リスニングセクションとリーディングセクションに分かれており、実際のTOEIC形式に沿った問題を扱いながら、実践的な英語力を高める。また、グループワークを通じて学習内容の復習を行い、理解を深める機会を提供する。最終的には、TOEIC TESTの基本的な問題を解く力を身につけ、やさしいビジネス英語を聞いて理解し、読解する力を修得することを目指す。	
	英会話 I		この講義は、初級英会話を中心に学習し、日常生活で使用される基礎的な文型を修得することを目的としている。学生は、自己紹介や日常の活動に関する表現を学び、簡単な英語でコミュニケーションを取る力を養う。授業では、さまざまな場面の会話練習と理解力を高める練習を組み合わせ、身近な話題や国際的な視点から英語の表現を学ぶ。特に、会話練習では「to be」動詞や現在進行形、所有形容詞、Yes/No質問、形容詞などの基本的な文法を活用し、日常会話に役立つ表現を修得する。また、場所や物の位置を表す前置詞や単数・複数形、所有格などの使い方も強化し、英語を使った実践的な会話力を向上させることを目指す。最終的には、英会話への興味を持ち、日常の状況で役立つ表現を修得することを目標としている。	
	英会話 II		この講義は、初級英会話を中心に学び、日常的な場面で使用される基礎的な文型と表現を修得することを目的としている。授業では、現在形、進行形、過去形などの基本的な時制や、傾度を表す副詞、目的語代名詞、助動詞「can」や「have to」など、日常生活で役立つ文法を段階的に学習する。特に会話練習を通じて、気持ちや感情の表現、仕事や招待への応答、予定の説明など、実践的なコミュニケーションスキルを養う。また、グループワークを通じて英語を使った対話力を向上させる。最終的には、英会話に対する関心を高め、役立つ表現を身に付けることで、実生活で使える英会話能力を修得することを目指す。	
	中国語 I		この講義は、中国語の発音と基本的な文法知識を修得し、初歩的な日常会話ができるようになることを目的としている。授業では、中国語の子音・母音の発音ルールや組み合わせを修得し、判断動詞「是」や呼称動詞「叫」、「姓」などの基本的な文法項目を学ぶ。また、簡単な挨拶や日常会話を実際に音声でコミュニケーションに使用するトレーニングを行う。授業の進行にあたり、学生はグループでの音読や情景再現を通じて実践的な発音と会話スキルを向上させる。最終的には、正しい発音と基本的な文法を理解し、日常の簡単な場面で中国語を使ってコミュニケーションを取ることを目標とする。	
	中国語 II		この講義では、中国語文法の基本知識と表現を修得し、将来的に自主的な学習を継続できる基盤を築くことを目的としている。授業では、発音や文法の復習を通じて、中国語の四声やアクセントを正確に発音できるようにすることを重視する。また、初歩的な文法知識や文型を学び、実際の日常会話で使える表現を身につける。グループでの音読や実際の会話シーンの再現を通じて、発音や文法の使い方を実践的に学ぶ。最終的には、中国語の基本的な文法と表現を修得し、自主学習を継続できる力を養うことを目指す。	
韓国語		この講義では、韓国語を通して隣国韓国を理解し、その多様な表現や考え方に触れることで国際感覚を養うことを目的としている。他国の言葉を学ぶことで、単に他者への理解を深めるだけでなく、自身や自国について新たな視点から理解を深める機会を提供する。授業では、韓国語の母音や子音、発音規則などの基礎から始まり、挨拶や自己紹介、日常会話に必要な表現を修得する。また、韓国に関する調査発表を通じて、個々の興味に応じた韓国の文化や社会を知る機会も提供する。最終的には、韓国語の文字を読み書きし、簡単な会話ができるようになることを目指し、身近なテーマについての韓国語会話や、興味のある分野の韓国事情に関する知識を得ることが目標である。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
工学部 共通科目	工学概説	○	この講義では、機械工学、電気情報工学、土木工学の3つの工学分野について総合的かつ包括的な概説を行うことを目的としている。それぞれの分野の特徴を理解するとともに、各分野が互いに密接に関連していることを知ることで、学生が将来の就職やキャリア設計に役立てられるようにする。講義はオムニバス形式で進め、専門家がそれぞれのテーマについて講義を行う。講義を通じて、機械・電気情報・土木の各分野の知識を横断的に理解し、総合的な思考力や判断力を養うことを目指す。最終的には、授業内容を自分の考えに基づいてまとめ、課題解決に取り組む能力を修得することが目標である。	オムニバス メディア
	デザイン学概説		この講義では、デザインを学ぶための基礎的な知識と視点を養うことを目的としている。デザイン学部の全専門教員が各専門分野における研究や実践活動を通じて、デザインの多様な役割や考え方をわかりやすく紹介する。講義を通じて、建築、グラフィック、プロダクト、情報デザインなど、さまざまな分野におけるデザインのエッセンスを学び、その広がりや奥深さを理解する。また、デザインの原則や実践例を通じて、現代社会におけるデザインの重要性や課題解決の手法を学び、主体性を持って他分野の人々と協働しながら課題に取り組む力を養うことが目標である。最終的には、デザインに対する幅広い視点を持ち、社会的な課題を発見し、それに対して創意工夫しながら解決に取り組む力を修得する。	オムニバス メディア
	京築学		本講義は、本学工学部が位置する京築地域において、本学が地（知）の拠点となるため「地域を知る」ことを目的としている。京築地域は工学部のキャンパスが設置されている荻田町と、行橋市、豊前市、みやこ町、築上町、吉富町、上毛町の2市5町から成る地域であり、本講義では、まずそれら2市5町の関係者にそれぞれの市の現状と課題を講演してもらい課題の把握と課題解決能力を養う。また当該地域に対する造詣が深い講師を招き、さらに身近な内容を知ることから地域志向を向上させる。	メディア
	基礎物理学S		この講義では、力学、波動、電磁気、熱力学に関する基本的な自然現象を解説し、それらの物理学的な概念を理解することを目的としている。これらの分野は理工学系学科の基礎であり、特に力学の理解は重要である。講義を通じて、ベクトル、微分積分を活用した運動方程式の立て方や物体の運動を正確に記述する方法を学ぶ。また、エネルギー保存則や運動量保存則といった重要な物理法則を理解し、応用力を養う。最終的には、これらの知識を活用して、物理的課題を解決できる力を修得することが目標である。	メディア
	基礎物理学		この講義では、力学、波動、熱力学、電磁気学に関する基本的な自然現象を解説し、それらの法則性を理解することを目的としている。これらの分野はすべての理工学系学科において基礎となるものであり、特に力学は他の物理学分野の理解に不可欠である。さらに、物理的な概念や理論を実際の問題に応用し、物理現象を数学的に表現する力を養う。授業では、演習や課題を通じて理解を深め、実際に課題を解決する力を身につけることを重視する。最終的には、各分野の基本事項を確実に理解し、物理的な問題を論理的に解決できる力を修得することが目標である。	メディア
	線形代数学 I S		工学や自然科学では、単独の数ではなく複数の要素をもつ量が生じることがしばしば現れる。たとえば、力学における力では大きさだけでなく方向を持った量である。また、連立1次方程式では複数の数の組を解として求めることが問題になる。さらに、数値計算や統計の分野ではもっと多量の数の組が現れる。このような量はそのままでは取り扱いが難しいが、適切な体系を与え演算を定義することによって、単独の数にも似た計算が可能になり、全体の構造が把握できるようになる。この授業では、学部教育にスムーズに移行するために2次元や3次元の低次元における行列と行列式について理解することを目的とする。また「連立方程式と行列式の関連性」をテーマとした考察とディスカッションも行う。	メディア
	線形代数学 I		工学や自然科学では、単独の数ではなく複数の要素をもつ量が生じることがしばしば現れる。たとえば、力学における力では大きさだけでなく方向を持った量である。また、連立1次方程式では複数の数の組を解として求めることが問題になる。さらに、数値計算や統計の分野ではもっと多量の数の組が現れる。このような量はそのままでは取り扱いが難しいが、適切な体系を与え演算を定義することによって、単独の数にも似た計算が可能になり、全体の構造が把握できるようになる。このため現代における工学や自然科学の道具として、線形代数学は微分積分と並んで欠くことのできない数学の分野とされる。この授業では、学部教育にスムーズに移行するために2次元や3次元の低次元における行列と行列式について理解することを目的とする。	メディア
	線形代数学 II S		この授業では線形代数学 I に続き、2次元や3次元の低次元におけるベクトル空間や1次元変換、固有値・固有ベクトルについて理解することを目的とする。これにともなう行列の種々の演算に習熟し、その幾何学的な意味を理解することを目指す。さらに固有値計算の発展的内容である行列のn乗の計算やケーリー・ハミルトンの定理といった代数的な側面についても解説し、これらをテーマとした考察やディスカッションを行う。	メディア
	線形代数学 II		工学や自然科学では、単独の数ではなく複数の要素をもつ量が生じることがしばしば現れる。たとえば、力学における力では大きさだけでなく方向を持った量である。また、連立1次方程式では複数の数の組を解として求めることが問題になる。さらに、数値計算や統計の分野ではもっと多量の数の組が現れる。このような量はそのままでは取り扱いが難しいが、適切な体系を与え演算を定義することによって、単独の数にも似た計算が可能になり、全体の構造が把握できるようになる。このため現代における工学や自然科学の道具として、線形代数学は微分積分と並んで欠くことのできない数学の分野とされる。この授業では、線形代数学 I に続き、2次元や3次元の低次元における「ベクトル空間」や「固有値・固有ベクトル」について理解することを目的とする。	メディア

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
工学部 共通科目	微分積分学ⅠS		工学に現れる多くの現象を数式によって記述し、解明に役立てる数学の一分野が微分積分学（解析学）である。歴史的には天体の運動の観測や面積を測るという必要性から生まれた学問であるが、現在でも自然科学全体に通じる考え方や言語の源になっており、自然現象や社会の仕組みを解明するには必ず通る道であり最先端の技術にもつながっている。この授業（微分積分学ⅠS）では、1変数の主要な関数について極限、連続性、微分可能性、導関数、テーラー展開、積分の概念、原始関数、定積分等、基本的な事項を統一的な視点のもとに扱う。	メディア
	微分積分学Ⅰ		工学に現れる多くの現象を数式によって記述し、解明に役立てる数学の一分野が微分積分学（解析学）である。歴史的には天体の運動の観測や面積を測るという必要性から生まれた学問であるが、現在でも自然科学全体に通じる考え方や言語の源になっており、自然現象や社会の仕組みを解明するには必ず通る道であり最先端の技術にもつながっている。この授業（微分積分学Ⅰ）では、扱う関数を多項式関数に限定して、極限、微分可能性、導関数とその活用、原始関数、定積分とその活用等、基本的な事項を統一的な視野のもとに扱う。	メディア
	微分積分学ⅡS		この授業では微分積分学ⅠSに引き続き、多変数関数の微分と積分を修得し、種々の極大・極小の求め方を把握することを目的とする。前半は偏導関数と接平面、微分の連鎖率やテーラー展開を学び、2変数関数の極大・極小を求められるようにする。後半は多変数関数の積分と変数変換を学び、特に直交座標から極座標への変数変換をヤコビアンによって計算できるようにする。特に応用で頻出するガウス積分を求められるようにする。	メディア
	微分積分学Ⅱ		工学に現れる多くの現象を数式によって記述し、解明に役立てる数学の一分野が微分積分学（解析学）である。歴史的には天体の運動の観測や面積を測るという必要性から生まれた学問であるが、現在でも自然科学全体に通じる考え方や言語の源になっており、自然現象や社会の仕組みを解明するには必ず通る道であり最先端の技術にもつながっている。この授業（微分積分学Ⅱ）では、いろいろな関数の微分・積分の計算を確実に実行出来るようにする。	メディア
	データサイエンス入門	○	本講義は、デジタル社会において数理・データサイエンス・AIを活用する基礎的素養を身につけることを目的とする。データサイエンス、AI、機械学習、ディープラーニングといった分野における知識を学び、実社会での応用を体験することを通じて、これらの技術の有効性を理解し、適切な判断を下せる力を養う。講義では、データの収集と可視化、AIの活用事例、データ倫理、SDGsとの関連を含む多様なテーマを扱い、実践的な演習を通じてデータ処理や分析スキルの修得を目指す。最終的に、データサイエンスとAIを活用した社会問題の解決策を提案できる力を身につけることが到達目標である。	メディア
	データサイエンス基礎		この講義は、デジタル社会における基礎的な知識として「数理・データサイエンス・AI」を修得し、日常生活や職場でこれらを活用するための知識と技能を身につけることを目的としている。具体的には、データの収集、観察、分析、および可視化に関する手法を学び、それらの基礎的な理解を深める。また、ExcelやPythonを用いて、統計分析や機械学習に関連する実習を通じて、データサイエンスの実践的な技術を修得する。授業では、データ分析の進め方や回帰分析、クラスター分析、アルゴリズムなどを学習し、最終的にはデータを効果的に可視化し、課題解決に活用できる能力を養うことを目指す。	メディア
	データエンジニアリング基礎		「データサイエンス入門」および「データサイエンス基礎」で学んだ数理・データサイエンス・AIの知識をさらに深め、実践的なスキルを習得することを目的とする。主な内容として、回帰分析や分類などのデータ分析手法を学び、データの関係性や傾向を明らかにする。さらに、ビッグデータを活用するためのデータ収集とデータ加工の技術を習得し、データ取得、データクリーニング、欠損値処理、異常値検出などを学ぶ。また、データの可視化についても学び、ExcelやPythonのライブラリを用いて、データの視覚的表現を学ぶ。これらの内容を実際のデータセットを用いて実演し、理論と実践を結びつけることで、実務に役立つスキルを習得することを旨とする。	メディア
	AI基礎		この講義では、急速に発展する人工知能（AI）の技術とその社会的利活用について学び、その基礎的な知識を修得することを目的とする。AIの歴史や応用分野に始まり、データサイエンスや機械学習、深層学習に関する基本的な数学や統計の概念、アルゴリズムについて解説する。また、AIの利活用に際しての倫理的な課題やプライバシー問題など、社会的影響についても取り扱い、実際にデータ収集、加工、AIの学習と評価の演習を行うことで、AIの適切な運用方法を身につけることを目指す。	メディア
	統計学S		近年、データのもつ価値への認識は益々高まっており、学術分野から社会保障や震災対策を含めた施策に至るまで、データに基づいた意思決定の大切さが認識されている。その中で推測統計学の役割は、膨大なデータから有用な情報を取り出し合理的な意思決定に役立てることにある。そのためには、データにつきまとう偶然の影響やデータから推測される結論の信頼性を評価することが重要である。実際のデータ処理はコンピュータ、特に最近ではAIによって実行されつつあるが、どんなアルゴリズムにも適用限界があり、正しい運用のために理論的な枠組みの理解が不可欠である。こうした背景からこの授業では数理統計学の入門として標準的な内容を学習する。	メディア
	統計学		近年、データのもつ価値への認識は益々高まっており、学術分野から社会保障や震災対策を含めた施策に至るまで、データに基づいた意思決定の大切さが認識されている。その中で記述統計学の役割は、膨大なデータから有用な情報を取り出し可視化することによって合理的な意思決定に役立てることにある。実際のデータ処理は計算機で行うことになるが、正しい運用のために理論的な枠組みの理解が不可欠である。そうした理由から、この授業では数理的な立場から統計的分析の仕組みを理解することを目的とする。このためグラフの作成や手計算と電卓による計算を通して、統計データに対する直観を養い、分析ツールを使いこなすための本質的理解を得られるようにする。	メディア

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
工学部 共通科目	esports基礎		Esports (electronic sports)は、単一の組織が取り纏めて、合意されたルールに基づいて、主にチームで電子機器を用いて競争するコンピュータゲーム(デジタル、ビデオゲーム)である。近年、エコシステムを含む市場規模の急成長に伴って、esportsの学位認定などesportsを教育カリキュラムへ導入する動きが国外では加速している。また、内閣府の知的財産推進計画の中でもesportsの社会的意義・波及・効果についての検討が求められている。 本講義では、esports競技会(大会)とイベントのマネジメント手法を総合的に理解することを目的とする。はじめに、esportsが提供する社会的利益、包括性、組織と競争の構造について、様々な事例を提示しながら学ぶ。つぎに、学生は世界規模でのesports大会運営のノウハウについて学び、"esports応用"の講義で小規模なesports大会の開催をゴール地点に設定し、実践的な見識を深める。	共同・メディア
	esports応用		esportsを通じた学生同士のソーシャルダイナミクスによって、学生はesportsと関連する学際領域の専門知識習得を行いながら人間関係の満足度向上および社会感情学習の面での成長を目指す。また、esports基礎で身に着けた専門知識やデータ解析スキルを基にして、学生が計画したイベント企画を実際に学内で開催し、各ステークホルダー視点に立ってこれまでに習得した専門知識を活用してもらい、社会人基礎力の獲得を目指す。	共同・メディア
	システム工学		この講義では、システム工学における基礎的な知識と技術の修得を目的とする。システムを設計し、評価するためには、データの統計解析、モデリング、システムの計画と評価といった広範な技術が必要である。本講義では、これらの要素に焦点を当て、具体的な演習を通じて実践的なスキルを身につけることを目指す。Excelを用いたプログラミングの基礎から応用までを扱い、さらにシステム計画のスケジューリング技術であるPERT図の作成や評価を行う。また、動的システムのモデリングを微分方程式を用いて学び、振動系や電気系などの具体的なシステムの解析も行う。これにより、将来の実務で必要とされるシステム工学の技術を効果的に修得することが期待される。	メディア
	情報メディア論		近代以降登場した新聞、テレビなどの様々なメディアは、現在インターネットに代表される新しい様式へと変容を遂げている。そのようなメディアから得られる情報は、私たちの考え方や生活に影響を与えているだけでなく、共同体や文化のあり方にも様々な影響を与えている。本講義では、日々様相の変化するメディア社会において、メディアと人間やメディアと社会との関係を哲学的に理解し、倫理・規範・コミュニケーション・権利・道徳的主体等の観点から、情報化した社会が直面している様々な倫理的問題について考える力を身につける。	メディア
	非破壊検査概論		非破壊試験は、機械設備等の保守・保全において極めて重要な役割を担う。本講義の目的は、非破壊試験に関する基礎知識を身につけ、機械設備の保全や寿命予測に対応可能な実践的な技術者を養成することである。授業では、非破壊検査の概要や各種検査方法の原理と実際、適用事例について学び、具体的には漏れ試験、浸透探傷試験、磁気探傷試験、渦電流試験、超音波探傷試験、放射線透過試験、ひずみゲージ試験などを取り上げる。各試験方法の特徴と適用事例を理解することで、非破壊検査の重要性を深く認識し、今後の実務に役立てるための知識を修得することを目指す。	メディア
	スポーツ工学Ⅰ		スポーツ工学Ⅰでは、スポーツバイオメカニクスを中心に学び、スポーツ動作や現象を力学的に研究する基礎を修得することを目的とする。また、スポーツが人間の健康に及ぼす影響についても考察し、スポーツの可能性について理解を深める。講義では、筋肉の構造や働き、力学的な法則を基にしたスポーツ動作の解析、エネルギーやパワーの概念、運動量と力積などを扱う。また、実際にスポーツ業界で活躍する講師による特別講演も取り入れ、実践的な知識を学ぶ機会も提供される。これにより、スポーツ動作の定量的な評価を行い、競技力向上に科学がどのように貢献しているかを理解し、スポーツの持つ可能性について考える力を養成する。	メディア
	スポーツ工学Ⅱ		本講義の目的は「スポーツ工学Ⅰ」で学んだ基礎知識を「応用」し、感覚的に理解した力学を具体的なスポーツの研究事例から学び、自在に活用できる力を身につけることである。具体的にはスポーツ用具や施設とスポーツパフォーマンスの進化の関係性をテーマに、バイオメカニクスと流体・衝撃・材料力学の関係について学ぶ。さらにスポーツにおける映像やウェアラブルデバイスなどの解析技術、そしてAIのスポーツへの応用について解説する。	メディア
	スポーツ工学Ⅲ		本講義の目的はスポーツ工学に関連する評価・計測手法について「実践」を通して学び、専門知識と研究力を習得することである。具体的には、3次元動作解析(モーションキャプチャ)、慣性センサー、映像解析などを用いた実験を行い、自らのデータを取得・解析することで評価・計測技術を習得する。さらに工学的アプローチによるスポーツへの貢献や課題解決について調査し、グループディスカッションと発表を通して、社会実装に向けた応用について自ら考える力を身につけることができるようになる。	メディア
	ボランティア・フィールドワークⅠ		ボランティア・フィールドワークでは、学生が地域の中で、そこに暮らす人々を支えるためには何をすべきか主体的に考え、1,2年次で学んだ幅広い総合的な知識を用いて、創意工夫しながら課題の発見やその解決について取り組むことを目的としている。ボランティア・フィールドワークⅠでは、ボランティアとは何か、ボランティアのマナーや心構え等を講義形式で学習した後、フィールドワークとしてボランティアの受け入れ機関での実践活動を行う。フィールドワーク後には、活動内容をレポートにまとめると共に、実践活動の成果・課題・今後の取り組み内容についてプレゼンテーションを行う。	メディア
	ボランティア・フィールドワークⅡ		ボランティア・フィールドワークⅡでは、ボランティア活動の最前線で活躍する方をゲストにお招きして、各ボランティア活動の企画や運営方法を学んだ後、ボランティア・フィールドワークⅠでの実践活動を通して得られた経験をもとに、自らボランティア活動の企画、運営計画を立案し実践活動を行う。フィールドワークでは、多様な方との交流を通して自らのコミュニケーション能力を育成し、豊かな人間性と社会人基礎力を身につけることができる。フィールドワーク後には、活動内容をレポートにまとめると共に、実践活動の成果・課題・今後の取り組み内容についてプレゼンテーションを行う。	メディア

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
工学部 共通科目	情報技術基礎	○	現代社会においてコンピュータの重要性は言うまでもない。また、デジタルトランスフォーメーション (DX) 化の流れから様々な機器にコンピュータを接続し、ネットワーク経由でデータ処理を行う Internet of Things (IoT) 化も広がっている。本講義ではコンピュータのハードウェア及びソフトウェアの基礎的な事柄を修得することを目的とする。	メディア
	初級簿記	○	「簿記」の目的は企業の取引を数字で正確に記録できるようになり、貸借対照表や損益計算書などの決算書を作成することができることにある。また、決算書により企業の経営状況を把握することもできる。数字を正確に記録することにより、数字の意味を理論的に考えられるようになる。「簿記」はお金の流れを管理するスキル修得となる。	メディア
	AIリテラシー	○	急速に進化するAI(人工知能)のリテラシーを養成することを目的とした授業である。これからのビジネスパーソンとして必要とされるであろう幅広いAIの知識を学び、知的活動をサポートするツールとして実践的に使いこなせるようになることを目標とする。授業は次の三つのパートから構成する。 一つ目は、AIの原理や、社会的な有用性、そして危険性といった基本的なAIの概論。 二つ目は、ロジカルシンキングを養成し、自分の考えを具現化するためのAI使用を促す演習。 そして3つ目は、文章・ビジネスツール・画像・映像など、様々な分野の生成AIを学び、応用する力を養成する演習。 これらの学びを通じ、思考のサポートツールとしてAIを使いこなす能力を養成する。	メディア
	企業会計	○	健全な企業経営を行うには、資金の流れを可視化して、適切な経営判断を行う必要がある。財務 (Finance) とは、一般的には企業の日々の資金の流れを把握し、ショートしないように資金繰りを考え、調達する業務を指す。一方、経理 (Accounting) は「経営管理」の略語で、企業に出入りする資金の記録 (伝票への記帳) から、経営判断に欠かせない財務諸表の作成まで、事業目標の達成や経営課題の改善を考える上で、重要な資金に関する情報提供を行う業務である。また、会計は英語では経理と同じ Accounting でほぼ同じ意味だが、伝票への記帳や税務調査対応といった業務を狭い意味で会計と呼ぶこともある。本講義では、「初級簿記」の履修を前提に、会計制度、資金調達、貸借対照表、損益計算、キャッシュフロー、原価計算、時価会計、税務といった財務会計業務の基礎を学ぶ。またその上で、連結会計、実地棚卸、在庫管理、企業価値の算定に関わる手法について学習するとともに、国際的な会計基準の収斂動向を含めたグローバル化への対応に関して理解を深める。	メディア
	企業実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		大学では、主として専門知識を学ぶが、技術者・研究者にとっては実務を経験し、実践に対応できるようにすることが大切である。そのためこの実習では、各学科に関連する理工学の実践の場 (学外企業など) を自主的に選択し、責任ある立場での就業体験を通じて、学習することを目的とする。本実習では、担当教員の指導の下、研修先企業を選択する。研修先企業が決定後、企業担当者並びに担当教員と協議し、エントリーシート、日誌、秘密保持・個人情報保護に関する誓約書など各種書類を併せて提出する。	標準外
	ゼミナール	○	本講義は、各研究室に配属後の研究を円滑に進めるための基礎知識と実践的な技術の修得を目的とする。卒業研究に向けた準備として、研究テーマの理解やゼミナールでの発表を通して、論文作成やプレゼンテーションのスキルを身につける。また、就職活動に必要な基礎力を養うために、SPI模試や履歴書作成、エントリーシートの書き方、面接対策も行う。さらに、インターネットを利用した求人情報の検索方法や就職活動の進め方も指導し、卒業後のキャリア形成に役立つ力を身につけることを目指す。	共同
	卒業研究Ⅰ	○	1～3年次に修得した教養教育科目および専門科目の知識を活かして各研究課題に対する研究を「卒業研究Ⅱ」と併せ行う。特に、この研究によって、学生が自ら研究上の問題点を見出し、その問題点を解決することにより、分析力、思考力、判断力、応用力、さらには創造力を養うことを目指す。また、研究室での活動を通して、自己行動に対する管理能力やコミュニケーション能力などの社会人として必要な能力も身に付ける。なお、適宜、地域企業の課題解決テーマを研究課題とする。	共同
	卒業研究Ⅱ	○	1～3年次に修得した教養教育科目および専門科目の知識を活かして各研究課題に対する研究を「卒業研究Ⅰ」と併せ行う。特に、この研究によって、学生が自ら研究上の問題点を見出し、その問題点を解決することにより、分析力、思考力、判断力、応用力、さらには創造力を養うことを目指す。また、研究室での活動を通して、自己行動に対する管理能力やコミュニケーション能力などの社会人として必要な能力も身に付ける。なお、適宜、地域企業の課題解決テーマを研究課題とする。	共同
	プロジェクト演習Ⅰ		1～3年次に修得した教養教育科目および専門科目の知識を活かして、各プロジェクト課題に対する演習を「プロジェクト演習Ⅱ」と併せ行う。特に、産業界や地域社会が抱えている課題を解決するため、プロジェクトテーマの選定、課題分析、さらに課題解決の取り組みを演習形式で実践する。本講義ではグループワーク形式で演習を推進することで、多様な人々と連携するためのコミュニケーション能力を身につけ、課題や目標に向かって組織をけん引し、主体的に取り組む能力を身につける。	
プロジェクト演習Ⅱ		1～3年次に修得した教養教育科目および専門科目の知識を活かして、各プロジェクト課題に対する演習を「プロジェクト演習Ⅰ」と併せ行う。プロジェクト演習Ⅱでは、演習課題をさらに発展させ、分析力、論理的思考力、プレゼンテーション能力等、学生に実務型技術者としての実践力を身につけることを目的とする。なお本講義では、プロジェクト演習Ⅰから取り組んだ活動内容を、プロジェクト活動の成果・課題・今後の取り組みについてプレゼンテーションを行う。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	情報マネジメント系科目			
	ビジネス数学		本講義では、1次関数と2次関数、指数関数、対数関数など数量を表す上で重要な関数について学習する。各項目で基本的事項を学んだ上で関連する経済学のトピックにも触れる。たとえば、1次関数については販売の市場調査、2次関数については扱う店舗の利潤最大化を例とりあげるなど、ビジネスシーンでの問題を解く上で必要となる数学と、それを使う意味を理解できるようにする。また各種の経済指標や経理の複利計算の理解に重要な指数関数、対数関数の計算やその意味についても学習する。	
	マルチメディア工学		本講義は、現代社会における重要な技術であるマルチメディア技術の基礎を学び、その知識を応用する力を修得することを目的とする。マルチメディア技術は、文字、音、画像を統合し、情報を効果的に伝達するための手法であり、日常生活やビジネスのさまざまな場面で応用されている。本講義では、視覚・聴覚の特性やメディア処理技術、インターネットの活用法などを学び、さらに実習やグループワークを通して実践的なスキルを身につけることを目指す。	メディア 他学科同時開講
	Web技術基礎		HTMLとCSSの基本を学び、簡単なページ作成を通じてWeb技術の基礎を身につけます。自ら作成したWebページをPCやスマートフォンで確認し、実際の動作を確認することで理解を深めます。また、基本的なレイアウトやデザインの原則を学び、わかりやすく情報を伝えるページを作成するスキルも身につけます。さらに、レスポンシブデザインの基本を習得し、異なるデバイスでの表示方法に対応する技術を学びます。これにより、現代のデジタル社会で不可欠なスキルであるWeb技術に対する知識を強化し、実践的なスキルを習得することを目的とします。	
	情報技術 I		情報処理技術者の知識・技術水準を認定する国家試験として経済産業省が行っている情報処理技術者試験が12種類あるが、その中で最も基礎的な知識を扱う試験が「ITパスポート試験」である。本科目では、この「ITパスポート試験」受験のための講義を行う。「ITパスポート試験」は、「ストラテジ系」、「マネジメント系」、「テクノロジ系」の3つの分野に分かれているが、本科目では、「テクノロジ系」の内容について学習する。	
	数理最適化		数理最適化とは、数ある選択肢の中から最適な選択を見つける数学的な手法のことで、生産計画の最適化や勤務シフト表の作成、効率的なリソース配分の計画など幅広い分野で使われている。この授業では、プログラミング言語Pythonを利用して数理最適化問題を解く方法を学ぶ。特に理論やアルゴリズムの解説は最低限に抑え、クーポンの効果最大化、輸送車両の配送計画やクラス編成問題、商品のスコアリングなど具体的な問題をケーススタディとして学習し、課題解決や実装の初歩を、手を動かしながら学ぶことに重点をおく。	
	情報リテラシー応用		ビジネスシーンにおいて文書や発表資料を作成する技能を身に付けることは、情報発信、顧客との取引、契約などにおいて非常に重要である。「業務内容を伝達するための論理的な文書構成」、「ビジネスの内容を明確に表現するための図式化」などは、Word、Excel、Powerpointに代表されるソフトウェア群を用いることで効率よく作成できる。本講義では、主にWord、Excel、Powerpointを用いて、技術文書や発表資料の作成に必要な知識や技術の修得を目的とする。	
	基礎プログラミング I		事務的作業をデジタルトランスフォーメーション (DX) 化する場合、多くにおいてWebアプリケーション化することでネットワークとの連携を図ることが一般的である。WebアプリケーションはJavaScriptで構築することが多くDX化には欠かせない言語である。本講義ではJavaScriptの文法およびプログラミング技法を修得することを目的とする。	
	基礎プログラミング演習		事務的作業をデジタルトランスフォーメーション (DX) 化する場合、多くにおいてWebアプリケーション化することでネットワークとの連携を図ることが一般的である。本講義では基礎プログラミング I で学んだJavaScriptの理解をより深め、実践的なプログラミング能力を身に付けることを目的とする。	
	情報セキュリティ		日常生活やビジネスシーンで役立つ実践的な話題を提供し、情報セキュリティの基本概念やサイバー攻撃の手法、防御対策について学びます。具体的には、パスワード管理、データ暗号化、ネットワークセキュリティ、セキュリティポリシー策定、ソーシャルエンジニアリング対策などのテーマを取り上げます。これにより、情報資産を守るためのスキルとリテラシーを身につけることを目指します。最新のセキュリティ動向に興味を持ち続けることができ、現実のサイバーセキュリティの脅威に対して効果的な対策を講じる力を養います。	
ゲーム理論		ゲーム理論は経済や社会におけるさまざまな意思決定と個々の相互依存状況を数理的なモデルと論理を用いて調べる数学の理論であり、経済学や政治学、社会学、生物学の分野などに応用されている。この授業では電子メールや多数決、マッチングなど身近に現れるゲーム構造の例や生物、経済、行政における面白い問題を中心にゲーム理論的なものの見方や考え方を身に付け、ナッシュ均衡など理論の中心概念を直観的に理解することを目的とする。		
経営管理システム		本講義では、企業の経営上必須となる企業理念、機関設計、株式、会社組織、社内規定・文書管理、子会社・関係会社管理 (グループ経営)、内部統制、リスクマネジメント、機密情報管理、不動産管理、広報・渉外業務等を学び、その上で、近年の持続可能な開発目標 (SDGs=Sustainable Development Goals) やCSR (Corporate Social Responsibility) を踏まえた環境保全・社会貢献活動や国内だけでなく、グローバルな取組みについて理解を深める。また、企業活動や業務の流れを最適化するBPR (Business Process Re-engineering) の思想に加え、経営資源の有効活用の観点から企業全体を統合的に管理し、経営の効率化を図る業務横断型基幹業務システム (ERP=Enterprise Resource Planning) の活用事例を学習する。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	情報マネジメント系科目	Web技術応用	タブレット端末、ウェアラブル端末などPCとは異なった様々な新しい情報機器の登場、そしてネットワーク技術の進展により、様々な機器が相互に接続されるようになっていく。その結果、オペレーティングシステムや入出力デバイスなどの機器間の差異により一部機器のみサービスが利用可能な状況が発生した。これを解決する手法としてWebアプリケーション（Webアプリ）がある。この講義は、PCからスマートフォンまで様々な機器から操作可能なWebアプリの作成技術について学び、ビジネスシーンを想定したアプリ開発を通して技術修得を目指す。	
		アルゴリズム論基礎	一つの結果を得るための計算機プログラムの記述の仕方は無数に存在するが、記述により処理の効率性が変わってくる。本講義では計算機の構造から処理の効率性を定量的に評価する方法を学び、データの整列問題や探索問題などを例に、処理結果が同じになる複数の計算処理アルゴリズムについて考え、その処理の効率性を評価する。また、大規模な計算機プログラムにおける処理ボトルネックと、並列処理によるボトルネック解消について学ぶ。	
		情報技術Ⅱ	本講義は、情報処理技術者試験の中で最も基礎的な「ITパスポート試験」に対応した内容を学ぶことを目的としている。「情報技術Ⅰ」に続く本科目「情報技術Ⅱ」では、特に「テクノロジ系」に焦点を当て、コンピュータ技術やネットワーク技術の基礎的な知識を網羅的に学習する。具体的には、コンピュータの基本構造、アルゴリズム、データベース、ネットワーク、セキュリティなどの領域を扱い、実際の業務におけるITの活用方法を理解する。さらに、これらの知識をITパスポート試験に向けた試験対策として活かし、試験合格を目指すとともに、他の情報工学科目で学んだ内容を統合し、より深い理解を得ることができる。また、講義では表計算ソフトなどのアプリケーションソフトの効率的な活用法も取り扱い、実践的なスキルの向上も目指す。	
		情報数学	この授業の目的はコンピュータを専門的に使いこなすために不可欠な数学知識を解説することである。一般には、離散数学とよばれる分野の基礎を扱うことになる。そのためこの授業では高校までに習ってきた算数・数学の知識のうち情報数学を学ぶために実数、指数と対数など必要最小限の復習から始める。その上でn進数や集合と論理、写像の概念によってコンピュータの中で数値やデータ構造をどのように表現するか、計算という操作を支える仕組みがどのようにできているかを学んでいく。さらにデータ同士の関係をグラフによって表す考え方やデータベースの仕組みについて理解することを旨とする。	メディア
		Webデザイン	商品、サービスを広く宣伝するにはWeb技術は重要である。HTMLやCSSの知識修得は講義や本などで可能であるが、どのように写真を配置すると閲覧者の興味を大きく惹くことができるのかなどのデザイン要素はWebページの制作知識とは異なる。この講義は、HTMLやCSSなどのWebページ制作技術を理解したうえで、閲覧者の興味関心を大きく惹くことができるデザイン技法について学ぶ。特にビジネスでのWeb活用を念頭にしたWebページの構成、構築方法に焦点を当て、効果的なWebページの制作スキルを修得することを目的とする。	
		基礎プログラミングⅡ	近年は様々な場面で人工知能（AI）の応用が図られている。事務的作業をデジタルトランスフォーメーション（DX）化する場合においてもAIの応用が考えられるが、AI応用において多くの場合においてPython言語が用いられる。本講義では基礎プログラミングⅠで学んだWebアプリケーションとの連携を見据えたAI応用のためのPython言語のプログラミング技法を修得することを目的とする。	
		システム管理基礎	本講義では、情報システムがビジネスプロセスとマネジメントにどのように組み込まれ、企業が戦略的目標を達成するためにはどのような管理が必要であるかについて総合的に学ぶ。まず、情報システムの基本概念や構造を理解することから始め、次にリスク管理やデータ保護の重要性について深く探求する。また、クラウドサービスであるSAASやIAASの利点とそれに伴うリスクについても詳しく学ぶ。これにより、企業がクラウド技術を活用する際のリスク評価や適切な管理手法を理解し、導入効果を最大化するための方法を身につける。さらに、演習やケーススタディを通じて、情報システムを効果的に運用するための実践的なスキルを修得し、理論だけでなく実務においても活用できる能力を養う。	
		ソフトウェア工学	高品質のソフトウェアを効率的に開発するには、体系的あるいは定量的な手法が必要となる。本講義の目的は、ソフトウェアの開発に関わる基礎的なスキームを理解することにある。加えて運用及び保守に関する考え方や基本方針についても理解できるようにすることである。この結果、ソフトウェア工学の必要性を正しく理解、ソフトウェアの開発、運用及び保守に関わる実務内容を把握、ソフトウェア基礎理論や規範モデルの考え方を説明できるようになることが目的である。	メディア 他学科同時開講
		法務・知的財産	法務とは、企業活動における法律に関する手続きを適切に処理することで、企業を守ることにその役割がある。一方知的財産とは、技術開発など創造的な活動から直接生み出されるもので、その知的財産を法的に保護する権利を知的財産権という。本講義では起業、M&A（Mergers and Acquisitions：企業・事業の合併・買収）、事業再生・解散といったプロセスを学び、その上で、コンプライアンス、コーポレート・ガバナンス、契約、訴訟・係争、不正競争防止といった企業活動に不可欠な法的な手続きへの理解を深める。また併せて、特許、実用新案、営業秘密、意匠、商標、著作権といった知的財産権について学習する。	
		生産管理システム	生産管理とは、経営計画または販売計画に従って生産活動を計画し、組織し、統制する総合的な管理活動である。本講義では、QCDSME、仕販計画、見込生産・受注生産、生産方式、設備管理、作業管理、工程管理、安全管理、原価管理、納期管理、試作といった生産管理の基礎的事項を学び、併せて、生産管理システムやDXを含めた高度化手法に関し理解を深める。なお、QCDSMEとは、Q=Quality（品質）、C=Cost（コスト）、D=Delivery（納期）、S=Safety（安全性）、M=Man（人）、Machine（設備）、Material（原材料）、Method（方法）、E=Environment（環境）を示す。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
情報マネジメント系科目	調達・購買システム		購買とは、企業が製品やサービスを生産する上で必要な原材料や部品、または生産設備などを購入する活動で、調達とは購入だけでなく、レンタルやリースを含めて必要なものを確保する活動の総体である。本講義では、資材所要量計画 (Material Requirement Planning=MRP) から、在庫管理、各種発注方式、サプライヤー・マネジメント、取引契約、簡易購買、外注管理といった基本的な調達・購買プロセスを学習し、これらのプロセスに関わるITを活用した業務効率化及びコストの削減・適正化手法を修得する。また、これらのプロセスを進めるに当たって必須となる購買倫理のほか、購買分析・購買技術・VE (Value Engineering) ・開発購買に関わる手法を学び、コンプライアンスだけでなく、CSR (Corporate Social Responsibility) 調達を実行するための取組みについて理解を深める。	
	ソフトコンピューティング		この講義は、社会の複雑な挙動を様々な技術、例えば人工知能、機械学習、進化計算、生体模倣などを用いてモデル化し、そのモデルから推論、予測、解析を行う方法について学び、応用例により理解する。特にビジネスシーン、例えば小売業者において物品を認識して売上と気象情報との関係性をモデル化して関係性を解析するなど、ビジネスマネジメントに関するスキルを修得することを目的とする。	
	データ可視化		ネットワーク技術の進化により、高速で大容量のデータを無線接続で得られるようになったことからモノのインターネットと呼ばれるIoTによりあらゆるデータを観測し、蓄積できるようになった。膨大な量のデータから知見を得るために人工知能や機械学習を用いたり、統計によるデータサイエンスを応用することが多いが、それらを用いる前にデータを何らかの形で可視化し、傾向などを知る必要がある。この講義は、時間的、空間的に広範なデータを用いてデータを可視化するスキルを修得することを目的とする。	
	AI・IoT演習Ⅰ		本講義ではカメラやセンサをインターネットに接続することで様々なデータを取得可能なInternet of Things (IoT) 機器を用いてデータを取得する技法を学び、大量のデータ (ビッグデータ) の取得を行う。また、データ取得後にデータを人工知能 (AI) を用いてモデル化して別の場面での活用、クラスタ分析や因果関係の解析によりデータが生成された要因を確認するなどの様々な活用する方法を学ぶことを目的とする。	共同
	AI・IoT演習Ⅱ		本講義ではAI・IoT演習Ⅰで学んだ内容をもとに、実際の事務現場でIoT機器を接続し、AIを活用する方法について学ぶ。講義では企業と共同することで社会実装上の問題点を体験し、解決するにはどうすべきかを議論することで実践的な手法を学ぶことを目的とする。本演習においては、ビジネスDX化技術演習Ⅱと連携し、ビジネスDX化技術演習Ⅱでは扱わない、AIを活用したデータ分析を主としたデータサイエンティストの養成を目指す。	共同
	品質管理工学		品質管理 (QC: Quality control) は、顧客に提供する商品及びサービスの品質を向上するための、企業の一連の活動体系である。本講義では、品質、サンプリングと誤差、不良と歩留まり、信頼性、検査と予防、統計的手法、品質保証といった品質管理工学に関わる基本的事項を学び、併せて日本産業規格 (JIS)、国際標準化機構 (ISO)、並びに製造物責任 (PL: Product Liability) について学習する。また、QC7つ道具、新QC7つ道具、管理図、工程能力指数、将来予測等の品質管理における工学的手法に関して理解を深める。	
	データベース		データベースの基本概念から始め、リレーショナルデータベースの構造、設計、SQLの基本操作を学びます。さらに、オンラインのSQLツールを活用して実際にSQLを実行しながらトレーニングを行い、より実践的なスキルを身につけます。オープンデータや統計データを活用して、実際のデータベースを扱う実践的なスキルも習得します。具体的な事例を用いた操作を通じて、データベースの重要性とその広範な応用範囲を理解し、データをどのように利用できるかを体験します。これにより、データベースの有用性を実感し、情報を正確に管理・分析するための知識を身につけることを目的とします。	メディア 他学科同時開講
	コンピュータネットワーク		本講義では、コンピュータネットワークに関する基礎的な知識と技術を修得することを目的としている。現代の高度情報化社会では、インターネットやSOHOなど、分散された環境にあるコンピュータを相互接続し、効率的に情報を処理するネットワークシステムが不可欠であり、その役割は極めて重要である。講義では、LANやWANといった身近なネットワークの基本構造や通信方法、ルータやIPアドレスの仕組み、さらに情報セキュリティや暗号技術、ファイアウォールの設定など、ハードウェアおよびソフトウェアに関する知識を体系的に学ぶ。また、実習を通じてネットワークの管理運用やセキュリティ技術の応用、企業におけるネットワークの利用についても体験し、実践的なスキルを養うことを目指す。	メディア 他学科同時開講
	マネジメント課題探求演習	○	本演習ではビジネスシーンにおける様々な課題を探求することを目的とする。特に、現在に様々なビジネスシーンにおいて「仕事のDX化」が加速しており、DX化可能な課題をPBL形式で発見的に課題探求を行う。本授業ではDX化の可能性に着目して探求を行い、DX化の確実性は問わず、幅広い視野・視点から、1つのビジネスシーンを複数のグループで探求することで多面的な「気づき」を身に付ける。講義では実務経験の豊富な教員が必ず入り、また、DX化に必須の情報教員と共に受講者レベルに合わせた協働形式で実施する。	共同
	課題解決技術探求演習	○	本授業ではマネジメント課題探求で身に付けた「仕事のDX化可能性」への「気づき」を解決するための技術を探求し、知識と技術を演習形式で身に付けることを目的とする。本授業においては広く知識と技術を学ぶことから理論を深く探求するのではなく、事例や例題を元にしてどのような技術がどのような分野に应用可能か、ある教員の専門領域と別の教員の専門領域との組み合わせで課題解決の幅がいかにか広がるのかなど、幅広い探求をPBL等を用いた演習形式で学ぶ。	共同
DX化技術演習	○	本演習ではビジネスシーンにおけるDX化を見据えて、財務管理や経営管理、マーケティング等のマネジメント系講義で学んだ内容を紙ベースで実践し、それをDX化することを学ぶ。財務管理や経営管理という原則的に紙ベースであった処理の流れを理解し、DX化させるにはどのようにすべきかをグループで検討して実装、検証を行う演習形式である。マネジメント系講義で使用した例題などを使用し、DX化を理解するために解答の存在するマネジメント課題を解決することで、ビジネスシーンにおけるDX化に必要な技術をPBLとして学ぶ。	共同	

専門教育科目

情報マネジメント系科目

PBL科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	PBL科目	○	ビジネスDX化演習Ⅰ 本演習では実務経験のある教員の意見をもとに仮想的なビジネスシーンを設定したPBLとし、グループワークによりDX化に取り組む。DX化にあたって、1年後期から2年後期までの演習を通じて実践的に学んだものを応用する。また、各自の知識、技能、特技などをもとにしてグループ長やSE、SI、現場対応者などの役割を確定して各自の役割に沿った”現場に近い”環境で演習を実施し、後期のビジネスDX化演習Ⅱに備える。	共同
		○	ビジネスDX化演習Ⅱ 本演習では近隣の企業、自治体等と連携し、ビジネスDX化演習Ⅰで培ったスキルを社会実装することを目指す。本授業における役割ではビジネスDX化演習Ⅰでの役割と結果から再度各自の役割を考え、適切にDX化できるようにする。本演習では事業者との連携も重要な事項であり、進捗管理とその報告、方向性の確認など、対外的なコミュニケーション能力向上の社会人基礎力の醸成も目的としている。そして、最終目標として企業における一部業務のDX化を完遂する。	共同
			プレゼンテーション・ファシリテーション 3年次以降のグループワークの活動を加速させるため、コミュニケーションのヒューマンスキルを養成することを目的とした授業。この授業は、次の二つのパートで構成する。一つ目は、ロジカルシンキング・説明能力といった言語化能力を向上させるためのプレゼンテーション演習。二つ目は、対話力・課題解決力を活かし他者との共同作業を促進させるスキルを養成するためのファシリテーション演習である。当授業はいずれも演習形式で、体験を通じて実践的なコミュニケーションスキルを体得することを目標とする。	共同